

# 令和3年度 福井県立美方高等学校 学校関係者評価書

- ・学校評価書の成果と課題が適切か。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

同窓会長 岩本 克己 氏  
 後援会理事長 斎藤 勢津男 氏  
 P T A会長 濱野 利彦 氏

## ○中高一貫教育

- ・近年、中高一貫教育制度を利用しても他の高校へ進学する者もいる。本校へ進学した者の意欲も、その高まりが心配される。先取り学習だけでなく、中学生の将来の志望を個別に適切にとらえ、それに応えられる内容を提供してはどうか。
- ・高校生が協働して学びを深める活動を創造してゆくために、中学校との連携を視野に入れた探究学習への取り組みを期待する。
- ・改革や改善の効果が確認されるまでには、ある程度の期間が必要だが、可及的かつ迅速な実践を望む。授業理解や部活動の向上は、評価に値する。

## ○教育課程・学習支援

- ・施設・設備や教材など、学習環境は充実しており、教職員の指導方針も徹底している。生徒の理解度も高く、これ以上の指導も難しいほどだ。ただ、課題をこなす勉強から脱却し、自己の将来を見据えて自発的に取り組む学習への転換が重要になっている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策の影響で、生徒間の習熟度の差が大きくなるのが心配だ。
- ・教職員と地域との接点を増やすことが、指導の改善にもつながると考える。I C T活用もさらに進め、生徒も教職員も意識と取り組みを向上させることを願う。
- ・探究学習については、生徒の隠れた才能の発揮等ができたようである。生徒の主体性と創意工夫によるレベルアップに期待する。

## ○生徒支援

- ・挨拶はしっかりしているが、以前に比べて消極的であるとを感じる場面もある。礼儀正しさは本校の良き伝統である。ぜひ継承してほしい。
- ・校則や容儀の基準については、全国的に見直しが進められているように感じる。本校でも、本年度の制服一新を機に見直しを進めてほしい。
- ・部活動や学校行事に対する生徒の満足度が高いことは評価できるが、さらなる改革を進め、生徒主導の活動を増やしてほしい。
- ・スマートフォンなどインターネット端末の適切な活用の指導が重要だ。
- ・自転車通学生の安全意識について指導を徹底する必要がある。夕暮れ・夜間の無灯火や危険運転をなくしてほしい。

## ○教育相談

- ・風紀の乱れやいじめなど、本校は比較的少ないが、SNS利用の普及など、家庭や学校を取り巻く社会環境の変化は著しく、多様性を増している。今後とも面接相談などを継続し、アンケート項目の工夫などを含め、生徒の心を適切に把握する指導を望む。

## ○進路支援

- ・進路志望実現のための全体指導・個別指導とも、十分な教育がなされている。
- ・1年生の3分の1が進路目標を持っていないことを問題とは感じないが、将来の目標・ビジョンを明確に持たせることは重要である。

## ○保健管理・安全管理

- ・感染症対策の結果、学校行事や部活動に制限が設けられたことは、致し方ないことであるが、残念な思いだ。ただ、生徒の保健衛生観念が高まったことは歓迎すべきことで、健康管理意識を持たせ、自覚させることにはつながった。
- ・健康診断の結果などを踏まえた、スマートフォンなどの過剰な利用や、菓子類の過剰摂取への指導も必要である。

## ○図書整備・情報管理

- ・読書離れを危惧する声が世間で大きくなっている昨今、読書に対する興味・関心を持たせるように指導を行っていることは、大いに評価したい。これからも期待している。本を読む習慣が根付くよう、生徒の求める声にも耳を傾けながら、指導を進めていただきたい。
- ・読書に対して抵抗のある生徒には、例えば部活動関連や趣味・嗜好に関わる分野の書物を紹介するなどして、図書室を利用するきっかけを作ってはどうか。
- ・ホームページの充実として、特に中学生の興味・関心に合致する内容を取り上げるなどしてほしい。

## ○開かれた学校づくり

- ・保護者や地域の方々が本校に対して、いかに関心を持ち理解して応援してもらえるか、本校卒業生・同窓会がいかに応援するか。それらと学校がいかに連帯するか。後援会の存在などを考えると、地元地域をはじめ、学校外の「ファン」をより多くつくるのが、本校の課題である。
- ・コロナ禍によりP T A活動への距離ができてしまったことは残念に思うが、学校の情報が入りにくくなったことにより情報誌等を目にする保護者はかえって増えたのではないかと。入学志望者を増加させるためにも「開かれた学校づくり」に努力していただきたい。
- ・地域の応援は、本校の魅力につながっている。マスコミなども上手に利用してほしい。たとえば、御食国という地域の特性を打ち出すイベントを食物科で行うことや、両町の広報誌に運動部・文化部の活躍を紹介してもらうことなどを考えてみてはどうか。

#### ○特色ある教育の充実（家庭学科）

- ・本校の特色である家庭学科（生活情報科、食物科）の魅力を、たとえば小学校や中学校への訪問で伝えてゆくなどしてほしい。
- ・将来の目標を明確に持って入学する生徒が多い家庭学科であるが、その取り組みや成果などの情報発信をもっと積極的に行ってほしい。
- ・食物科は、食を通して社会と直接関わりが持てる学科である。積極的に地域貢献を行い、その成果を大きくアピールし、美方高校の名を上げることにつなげてほしい。NHK「奇跡のレッスン」などの、生徒たちが主人公となる情報発信をこれからも続けることが望ましい。

#### ○業務改善

- ・ICT機器の活用には、生徒が身に付けるべきスキルを的確に習得できるように指導することが、結果的に業務改善につながるのではないかと。ただ、機器をどう扱うかということだけではなく、人と人とのつながりやぬくもりを忘れないように指導してほしい。
- ・先生方の残業時間が減ることは、本来の業務である教育・指導の充実に欠かせない。

#### ○学校全体

- ・中学生にとって、高等学校進学への選択肢が増えていることは、高校側に「選ばれる」努力が求められるということだ。美方高校の魅力を内外に広く知らせて「選ばれる学校」にしてほしい。
- ・県外からの入学生も増え、以前の「地域の学校」とは少し変化しているが、根本は「地域の学校」であり、後援会も健全な活動を行っている。この学校を大切に思っている。
- ・本校を支える大切な部分である「地域とのつながり」が年々薄れていく昨今、今年度は新型コロナウイルス感染症対策がその傾向に拍車を掛けた。そんな中、地域に対してこれまでの賛助金などをお願いする応援の方法から、新たな応援の方法、手段を提案する時期と思う。
- ・先生方は、よく頑張っておられる。ありがたい。先生と生徒の波長・歯車がうまく合っている学校だと思う。地域や行政と連携しながら、さらに良い学校にしてほしい。

#### ○学校関係者評価をふまえた今後について

- ・普通科、生活情報科、食物科、それぞれの学科の特色を出していくための取り組みを検討し、探究的な学習の時間や課題研究を中心に充実させていく。そのために、地元住民や企業、自治体など地域とのつながりをさらに強いものにし、また、生徒全員に導入されたタブレット端末等を最大限活用しながら、特色ある学校づくりを進めていく。その上で、美方高校の魅力を県内外に積極的に発信し、アピールしていく。
- ・中高一貫教育においても、探究的な学習の時間での中高交流やタブレット端末を活用した生徒と教師、生徒間交流授業等を推進していく。
- ・「明強清」の校訓や「文武両道」の校是のもと、美方高校のあるべき姿を追求し続け、生徒一人一人が誇りを持つことのできる学校をつくっていく。